

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793100140		
法人名	株式会社 しんしん		
事業所名	グループホーム あすか		
所在地	福島県田村郡小野町大字谷津作字池ノ平73-1		
自己評価作成日	令和4年5月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和4年6月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあすかは、認知症の方が暮らしやすい生活ができるように、日常生活の活動(掃除、洗濯、食事)に対して創意工夫を行い、皆さんが笑顔で生活を送れるようにしています。また、職員との信頼関係が築けるように、皆様の声に傾聴しできる限りの要望にお応えしております。入居者の皆様に対して、真心込めた介護の提供を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービス事業所として、感染症拡大の中で地域とどうかかわっていけるか、災害時の対応について周辺の方との協力体制をどのように構築すべきかを懸命に模索している。管理者・職員は、利用者との接し方を日々顧みること、その人に合ったケアはどうあるべきなのかを考え話し合い、ケアの質の向上を目指している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどでない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員で各ユニット理念構築を行いその理念に基づいて実践につなげていけている。 あんず: 私たちは、笑顔と思いやりを目標にご利用者様とともに家庭的な生活を築いていきます。 ” 憩 ” かりん: 私たちはいきいきと日常生活が送れる様に暖かなやさしさと笑顔を提供します。 ” 暖 ”	各ユニットで理念を話し合い、利用者には憩と暖をもって接し、温かみのある会話が聞かれている時に理念が活かされていると感じている。定期的に理念について話し合い、実行はできているか、理解し行動はとれているか確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で外の外出、外部との繋がりがとれないため交流は余りかなえられていない。運営推進会議(書面会議)を通して、施設内の情報はお伝えしている。	グループホームの前身のショートステイ事業所としてのこれまでの経験や蓄積を活かして、地域の方を招いての交流や、避難訓練への協力の呼びかけを考えている。地域の介護や認知症の方支援の拠点となるよう活動してゆきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本事業所は今のところ地域の方に向けて発信を行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開所してから2回ほど行っている。書面を通して、関係者の皆様から貴重な意見をいただいている。	会議の中では、運営報告・人員報告・事故報告・活動報告・今後の方針等を伝え、家族会の代表から、行事など家族が協力できることがあれば連絡くださいと協力の申し出を貰っている。家族が参加できる行事や活動を検討していきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	小野町健康福祉課の担当者の方とグループホームの取り組みとして日頃から相談、協力を得ている。	行政の担当者とは、運営推進会議や外部評価、生活保護やコロナ予防に関して等の連絡・相談を行っている。グループホームとして、どこまで行っているのか、今後どのようにしていけばいいのか、外部研修の情報も引き続きほしいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の身体拘束適正化の研修を受け、報告を受けながら学んでいる。玄関の施錠に関しては、夜間は防犯のため活用している。	身体拘束防止のマニュアルを作成し、外部研修に参加してもらっている。ちょっと待っていて、という言葉が出る時があるが、どうして待たなくてはいけないのか、どのくらいの時間待ってほしいのか、など伝えられるよう模索している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当事業所としては、現状行っていない。今後、外部の研修と通しながら学んでいきたいと考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、市町村の担当者や地域包括支援センターの担当者の方と情報を共有し、問題が生じた時に対処できるように学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけではなく、日頃から相談等の電話がある場合は、その都度説明を行い、理解と同意ができるよう図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や要望に関しては、どの職員でも受けられるようにしており、返答に関しては、管理者から家族様へ行えるようにしている。また、各担当者を設け、相談しやすい環境を作り始めている。	月の状況報告書と一緒に意見や要望を書いて貰えるよう送付している。本人の自発性を引き出すために朝、利用者の名前を紹介することで、親近感が湧くのではとの意見があり、実行したところ利用者同士の声掛けが増えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者より個人面談を設けてもらい、運営に関しての意見や悩み事など話し合っている。職員からの提案に関しては、代表者から管理者・計画作成者に伝達され今後に反映できるように改善している。	備品購入や情報共有のあり方・勤務の仕方等について意見が出ている。職員と対話を行い日頃からストレスを感じていないか、働きづらくないかなど聞くようにしている。月のカンファレンス担当を職員の持ち回りにして、職員が抱えている悩みを共有できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者・計画作成者より現状の報告などを受け今後のアドバイスや給与の水準向上など職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設け、管理者や職員一人ひとりが法人内外の研修を受けられるように取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上できるように開所前、町内外のグループホームを見学・勉強会を实践できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること不安なことをケアプランに反映させ本人が安心できる為の関係性づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安なことを、要望を契約時や面会時に聴きながらケアプランに反映させ、関係性づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的なケアカンファレンスでそれぞれの利用者様の状況把握や現状抱えている悩みなどを職員が話し合い対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にしていくために、支援方法を検討しているが、現状職員が行っていることが多い。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様が何を望んでいるか、現状どのように生活しているか報告を行い、過去のエピソード話や手紙などを通じて共に支えていけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や親戚の方の面会等コロナ禍のためあまり行えていない。しかし、窓際の面会等であれば可能にしており、たまに近所の知り合いの方と交流を持つことができている。	近所の方や知り合いの方など手紙や電話で連絡できる方には、職員が間に入り関係継続できるようにしている。コロナ禍で直接、会えない為、窓際で面会をしているが、ワクチン接種状況、体調面の確認、時期と時間帯を考慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様がたの相性や席替え・居室替えなど行い利用者様が交流しやすいように工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現状サービス終了者は出していない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各入居者様の希望や意向に関して検討はしている。統一を図れるようにカンファレンスを行っているがなかなかできていない。	知り合いに連絡を取りたいとの要望には、家族に確認・了解を得て、電話や手紙のやり取りをして貰っている。把握した利用者の思いや意向は、申し送りや、管理者・計画作成担当者に伝え共有し、ケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各居宅の紹介時に情報をいただきながら把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりに対して午前・午後 2回バイタル測定を行い心身の状態・現状の把握に努めることができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前情報を基にアセスメントを行い、本人、家族、必要な関係者(ケアマネや医師)の意見等を参考に介護計画を作成している。	入居前の生活状態や家族からの情報、入居後は、日々の様子や職員からの情報をもとに作成している。その人の持っている力をできるだけ維持できるよう、何に興味を持っているかを探りながら、計画を作成したいと思い努力している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活記録を活用しながら生活リズム・排泄パターン等を把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族のニーズに合わせて柔軟なサービスの提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響で外部の訪問等を制限かけている。その為地域資源の活用ができていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様が希望されているかかりつけ医の受診と関係性を築いている。	かかりつけ医の受診は、家族対応で行っているが、家族の都合がつかない場合は職員が代行している。協力医療機関で月に一度の回診を行って貰っている。受診後は、電話で報告を行い、診察結果や薬の変更などの共有をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護師が連携を図り利用者様に対して適切な対応がとられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	現在入院者がいないため関係性づくりは行っていない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に”終末期の生活支援に関する覚書”より家族の希望・本人の意向を聞き、事業所として行えることを話し合っている。	重度化や終末期には、利用者や家族の意向を聴き安心して過ごせる空間を作れるよう、職員同士で検討している。緊急時には、常勤の看護師から担当医へ連絡が取れるようにしている。終末期に対応できるよう、職員の外部研修などを考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の活用などは行っている。応急手当の初期対応に関しては、その都度実践を通しながら学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に関しては、現状行っていない。地域との協力体制に関しても検討中である。	河川の氾濫時には道路が冠水し逃げ場がなくなることなどを想定し、事業継続計画のなかで防災マニュアルを作成している。消防署や近隣の方の協力を得て、各種の訓練を計画しようとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一同、入居者様の人格を尊重し、声掛けや対応に気を付けている。	職員はプライバシーを尊重し、居室の出入りを本人に確認しながら行っている。管理者・計画作成担当者が朝の申し送りや職員個人に対して尊重とプライバシーについて指導を行っている。声掛けは、相手の目線に合わせて、表情にあわせた対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伝えやすいように日頃から入居者様の思いを聞くようにしており、自己決定できるように問いかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事等基本的な時間の決まりを設けている。その中で利用者様の希望に沿ってその日の過ごし方など聞きながら支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれ(本人のこだわり)に沿いながら支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の好みではない時(麺類が苦手など)にはその利用者様に合わせた食事内容を提供している。食事の準備・片付けに関しては、関心のある方にお問い合わせしながら行っている。	一人ひとり、その人のペースで食事が出来るよう、その人に合わせ箸だけでなく他のものも使うようにしている。食べる力に合わせ食事形態を変更している。季節の行事を計画したり、旬の山菜などで食べる楽しみを感じられるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ヨシケイキッチンを利用している。栄養バランスが摂れるようメニュー表を参考に手作りで行っている。水分量に関しては、記録につけ、足りてない場合は、申し送りなどで連携を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員が声掛け誘導を行い口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け本人の意向に合わせながら介助を行っている。	出来る限りトイレで排泄できるように誘導介助を行っている。病院からオムツで入居された方が職員の丁寧な対応で日中はトイレ介助、夜間のみオムツと変更することが出来ている。本人の思いをくみ取り、トイレ誘導や歩行介助を促し、自立に向け取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整や食事(主食の変更や副菜の形態変更)を行い個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように本人様に確認しながら入浴日を決め対応を行っている。	嫌がる方には、誘う時間帯の変更や同性の対応を行っている。入浴剤を使用し、入浴の楽しみを味わってもらっている。入浴できないときは、シャワー浴や清拭で清潔にしている。羞恥心に考慮し、タオルなどを活用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が休息時間を作れるように対応している。休みたい時もあるため、状況に合わせて対応を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋をわかりやすいように管理・掲示を行っている。また、副作用等に関しては、看護師より申し送られ職員が対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様が日々の生活に張り合いや喜びのある日々を過ごせるように話し合っている。役割や楽しみごとを見つけられるよう会議等で話し合っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出を控えている。天気の良い日は近所の散歩を行っている。	外に出ることで、気分転換になったりすることを考え、天気の良い日は散歩や事業所敷地内の畑まで様子見などを行っている。散歩の際は緊急連絡ができるように携帯電話を所持している。春には、花見会を行い皆さん笑顔で外に出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所で金銭の管理は行っており、家族に相談をしながら本人様が希望されるものを購入できるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人、連絡ができるように、電話・手紙のやり取りは職員を通して行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には花や創作物を提示し、季節感が出るように工夫をしている。	利用者は、思い思いの場所で過ごし、自然と好みの場所が決まってきた。共有空間は、歩行しやすいように適度な空間を確保している。感染症対策で入居者の手指消毒の徹底、職員の健康管理を徹底している。温度計を確認し、湿度調整を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内にあるソファにて、入居者様同士話し合ったり、休まれたりと思い思いの時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にしながら家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	本人様が生活しやすいように、家族様と相談しながら電化製品や思い出の品を置くようにしている。また、本人様がトイレまで移動しやすいように工夫している。	一人ひとりの身体状況に合わせて家具等の配置を行っている。居室を間違えないよう、表札を掲げている。衣替えは、居室担当者が、季節に合わせて入居者と相談しながら行い、整理整頓し清潔で居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が「できること」「わかること」の工夫に関しては現状行っていない。今後職員同士検討しながら自立した生活が送れるようにしていく。		